

シニアと若者の共同生活 行政が後押し

孤独解消し互いの刺激に



西脇彩央さん(左)が作ったコーヤー
チャンプルーを取り分ける福井孝子
さん(右)も京都市生区

京都市生区。木造の輪
建の自家を住居ラッ
グサイナー福井孝子さん
(左)は昨年3月、京都市の
大学院生西脇彩央さん(右)
と一緒に暮らす始めた。
夫を病気で亡くした福井
さんは「新しい風を入れた
かった。若い人の生活には
刺激になる。逆に、京都の
暮らしや四季折々の話も
伝えられる」。三重県出身
の西脇さんは「家を揃え
たがった。福井さんを見て

新しい生活の形 定着には課題も

に花を飾り、ちょっとした工夫で生活を豊かにする。私も肩替わらない」と。互いに気合をかけるのは、相手のことに立ち入り過ぎず、何かあれば連絡を取り合おう。共同生活で一緒に膳を張り替えたり、子どもお昼を手伝ったり。夕食は、それぞれが作った料理を持ち寄って食べるという。福井さんと西脇さんの同居は、京都市が2016年度から行う次世代下宿「京都ソリテール」事業の一例だ。府が委託した民間事業者が高齢者や学生を面談、ニーズを聞いて調整し、同居後も苦情などに対応する。昨年10月末までに延べ38組の同居が成立し、家賃は月額2万5千〜3万5千円だ。同居生課の副課長は「地域に住む高齢者の一つとして広げられれば、事業者が自主的に取り組める環境づくりも重要だ」。京都市京田辺市も21年度から、同居の事業を始める予定という。一方、行政による支援が特段ない業者や団体は、人材育成や広報に課題もある。12年から2千数組を仲介する東京都武蔵野市の「東京リトルブレイス」の太田みえ代表(58)は、「若者の家賃の負担が軽くなるよう、1人で頑張っている」。

京都府の事業延べ38組の同居成立



木造2階建ての自宅前に立つ福井さん(左)と西脇さん



福井さん(左)家で、西脇さんも障子の張り替えに取り組む